

平和のとりくみ

生協は、「平和とよりよき生活のために」をスローガンに取り組みを行います。唯一の被爆国の国民として、核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法 9 条を含めた日本国憲法のよさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

宮城県生協連

● 核兵器使用を禁止する条約の制定にむけて 「ヒバクシャ国際署名」の街頭活動をおこないました

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」(略:「ヒバクシャ国際署名」)は、平均年齢 80 歳を超えたヒロシマ・ナガサキの被爆者が、『後世の人びとが、再び生き地獄を体験しないように、生きていられる間に何としても核兵器のない世界を実現したい』、その思いから世界の人びとに呼びかける署名です。

日本生協連は、被爆者の体験

と思いを語り継ぐ活動として、また 2020 年に開催予定の NPT (核不拡散条約) 再検討会議に向けた活動の一環として、全国の生協へ「ヒバクシャ国際署名」に取り組むことを呼びかけました。この署名は、2020 年までに生協全体で 100 万筆を目標にしています。

3 月 21 日 (火)「ヒバクシャ国際署名」に賛同する団体と被爆者が、仙台市青葉区一番町で



署名活動を行いました。宮城県生協連から松本研一郎課長が参加しました。

宮城県生協連は、全国の生協と一緒に核兵器廃絶を世界に呼びかける「ヒバクシャ国際署名」に取り組みます。

みやぎ生協

● 「第 34 回沖縄戦跡・基地めぐり報告会」 ～わたしが見た沖縄の今～

4 月 8 日 (土) エル・パーク 仙台ギャラリーホールにおいて、「第 34 回沖縄戦跡・基地めぐり報告会」を開催し、51 人が参加しました。

3 月 29 日 (水)～3 月 31 日 (金) 開催の「沖縄戦跡・基地めぐり」に参加したメンバー 6 人が、現地で見してきたこと、感じたことなどを模造紙にまとめ報告しました。

その後、報告者と参加者は、沖縄戦や基地問題について交流

し、思いを共有しました。

参加者からは、「沖縄の壮絶な体験と厳しい現在の状態を報告者の言葉から知ることが出来ました」「いまだに続いている米軍の統治部分もある沖縄の苦悩が分かりました」「大学生が自分の言葉で戦争・平和について同輩後輩についてねばり強く伝えていきたいという報告に希望を持ちました」といった感想が寄せられました。

(生活文化部課長 菅原忠宏)



沖縄の報告をする様子



報告者と参加者の交流の様子